

道路38 国道197号の一次改築(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
高知14	高知県土木史編纂委員会編「高知縣土木史」(高知県建設業協会、1998年)、589頁、817-818頁	<p>梶原町内の国道197号 (中略)難工事の高研山トンネル(延長1562m)を含む約7kmが開通したのは1981(昭和56)年8月のことで、76年4月に着工以来、実に5年4ヵ月ぶり。これで梶原町と愛媛県日吉村の中心部がこれまでの約半分の約30分で結ばれ、宇和島市と大洲市との距離がぐっと縮まった。また、梶原町の人家密集地を避けるバイパス工事に76年着手し、飯母第一トンネル(212m、78年完)、飯母第二トンネル(96.2m、79年完)、飯母橋(116.6m、81年完)などを完成して81年10月供用開始した。さらに最後まで工事の残っていた梶原工区の川口トンネル(445m)が83年11月完成、梶原～日吉間の高研地区は9.3km短縮されて16.9kmとなり、所要時間も50分から20分に短縮された。</p>
四国1	四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」(四国建設弘済会、1990年)、812頁、814頁	<p>国道197号高研山トンネル (中略)これにより現国道延長二六・二キロメートルが一六・九キロメートルとなり、所要時間で約五〇分から二〇分に短縮され、快適な走行、荷痛みの解消、ならびに四国南部の産業、文化及び日常生活の基盤道路として重要な役割を果たしている。</p> <p>国道197号布施ヶ坂地区 (中略) 全線供用は平成三年度を予定しており、現在、葉山村重谷・駄馬地区の工事を重点的に行い最盛期に入っている。本地区の完成により線形は大幅に改善されるとともに、全路線の大半が南向き斜面を通過することなどから、交通の安全性の向上、冬季の通行が確保されることとなる。 また、時間にして約二〇分、距離にして約三キロメートル短縮されることとなり、地域住民の通勤・通学・医療・消防活動など、生活水準の向上が図られることとなる。</p>